

神亀元年甲子の冬十月五日、紀伊国に幸す時  
に、山部宿禰赤人の作る歌一首 并せて短歌

九一七番

やすみしし わご大君の 常宮と 仕へ奉れる  
雑賀野ゆ そがひに見ゆる 沖つ島 清き渚に  
風吹けば 白波騒き 潮干れば 玉藻刈りつつ  
神代より 然そ貴き 玉津島山

反歌二首

九一八番

沖つ島 荒磯の玉藻 潮干満ち い隠り行かば  
思ほえむかも

九一九番

若の浦に 潮満ち来れば 潟をなみ 葦辺をさし  
て 鶴鳴き渡る